

学校経営 第1分科会「経営ビジョン」運営概要

- | | |
|----------------|---|
| 【研究課題】 | 創意と活力に満ちた学校経営ビジョンと校長の在り方 |
| 【研究の視点】 | 1 将来を見据えた明確な学校経営ビジョンの策定
2 学校の役割を明確にした創造的な学校経営の推進 |

分科会研究協議の運営計画

今日、知識基盤社会や情報化・グローバル化の進展とともに、少子高齢化、地域社会のつながりや支え合いの希薄化、家庭の孤立化などの様々な課題に直面している。将来的には、“人工知能（AI）の進化により人間が活躍できる職業はなくなるのではないか”“今学校で教えていることは時代が変化したら通用しなくなるのではないか”といった不安の声もある。

これからの学校には、変化が激しく予測が困難な時代にあっても、子どもたちが自信を持って自分の人生を切り拓き、より良い社会を創り出していくことができるよう、必要な資質・能力をしっかりと育てていくことが求められている。

そのために、校長は、これからの時代に求められる資質・能力について、学校と家庭・地域が共通理解して学校教育を推進できるようにするとともに、未来を見据えた明確な学校経営ビジョンを示し、活力ある学校運営を行い、学校改善に向けて絶えず評価・刷新し推進していかなければならない。

様々な教育課題の改善や改革が急速に進行している状況においては、校長は、まず、自校の実態から課題を明確にすることが大切である。そして、不易の部分をつまみつつ、流行の部分にも十分に目を向け、重点化と効率化を図りながら実効性のある解決を図ることが重要である。さらには、教職員が自信と誇りをもち、学校教育を推進していくように組織を効果的に動かしていく必要がある。加えて、学校は、保護者や地域の人々と課題を共有し、地域の中で揺るぎない存在となることが何よりも重要である。今、校長には、時代の潮流を的確にとらえる先見性と教育活動全般にわたる力強いリーダーシップの発揮が求められている。

本分科会では、子どもたちが生きる未来社会を見据えた明確な学校経営ビジョンをもち、創意と活力に満ちた学校経営を推進していくための具体的方策と成果を明らかにする。

視点1 将来を見据えた明確な学校経営ビジョンの策定

- ・学校経営ビジョンを前面に掲げ、その具現化のため方策を明確にした取組のあり方
- ・学校の責任者としての展望をもち、社会の変化や教育改革の方向性を踏まえた取組のあり方

視点2 学校の役割を明確にした創造的な学校経営の推進

- ・教職員が未来を見据え、自らの使命感と高い指導力に基づいて子どもを育成する取組のあり方
- ・他者への共感や思いやりを備え、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造し、未来社会を生き抜いていける子どもを育成する取組のあり方

昨年度までの成果・課題 ~平成29年度全連小佐賀大会、道小宗谷・稚内大会より~

【成果】

研究の視点1

校長自らが社会の変化や教育改革の方向性をふまえ、校長の思いに加え、保護者や地域住民の願い、子どもの実態に関する現状を教職員とともに調べ把握すること。そして、未来へつなぐ「学校教育目標」の策定を行い、教職員・保護者・地域・児童にゴールイメージを示し、周知することが重要であること。

自校の現状・課題を押さえ、これからの時代に求められる知識や力は何かを明確にし、経営方針に盛り込んだ学校経営ビジョンを策定することの重要性。

子ども達が自らの人生を切り拓いていくために必要な資質・能力を、教育課程において明確化し、目標や内容を見直す等、教育の質の転換を図っていくことの必要性。

研究の視点2

未来を見据えた、さらなる校長の力強いリーダーシップが必要である。目指す姿を具体的に描き、達成するための方策をよりシンプルな形で示し、教育活動全般を学校経営ビジョンに基づき整理統合する校長としての指導性が必要であること。

OJTを通し人材育成を行い、機能する組織づくりを行い、教職員一人一人に「組織の一員」としての「自分」の役割を自覚させることが学校経営推進の原動力であり、校長の役割であること。

校長としてCS化を見据え、地域の実態や保護者の願いをとらえた上で、学校経営プログラムや小中一貫教育タイムマネジメント等の「見える化」を図り、「地域とともにある学校」を推進することの重要性。

CS化を進める上で、経営ビジョンの方向性を見据えて、保護者や地域の方々の積極的な教育活動への参画を図ることの重要性・必要性。

【課題】

研究の視点1

学校経営ビジョンの策定にあたり、校長の思いをシンプルにまとめ、保護者や地域住民の願い、子どもの実態に関する現状把握等を速やかに行うこと。

新学習指導要領全面実施に向け、学校教育を通じて、社会と連携・協働しながら児童に必要な資質・能力を育む経営ビジョン策定の在り方。

研究の視点2

学校経営ビジョンの具現化のために、「一貫性を持つ、変化のある繰り返し」が、校長の創意にかかっていること。

具体的な目標指標を設定し、教職員の参画意識の向上と資質の向上を図る必要があること。

CSの導入を図り、教職員や保護者・地域のモチベーションを高め、新たな地域人材の育成・確保にあたる強固な協働体制構築の在り方。

研究発表の概要

視点1 将来を見据えた明確な学校経営ビジョンの策定

研究発表者 青森県 黒石市立浅瀬石小学校長 阿部 誠

発表題 学校経営ビジョン策定における「課題の明確化」と「作成の手だて」の検討
～青森県南地方の意識調査と実践から～

発表の要旨

本提言では、青森県南地区の研究協議題である「学校経営ビジョン策定における『課題の明確化』と『作成の手立て』の検討」と関連づけ、研究の視点「将来を見据えた明確な学校経営ビジョンの策定」の工夫として、「資質・能力の実現に向けた課題を明確にするための働きかけ」「明確になった課題からビジョンを策定する際の有効な手立ての工夫」について、青森県南地区の各校の実践的な取組をもとに、校長の理念・在り方と役割について取り上げている。

視点2 学校の役割を明確にした創造的な学校経営の推進

研究発表者 北海道 江別市立東野幌小学校長 高橋 秀明

発表題 「生きる力」を確実に育成する学校づくりと校長の在り方

発表の要旨

本提言では、石狩管内小中学校長会の研究協議題「『生きる力』を確実に育成する学校づくりと校長の在り方」と関連づけ、研究の視点「学校の役割を明確にした創造的な学校経営の推進」の工夫として、「学校経営ビジョンの実現に向けた組織マネジメント」「経営ビジョンを実現するチームワーク・ネットワークづくり」について、石狩管内及び自校の先駆的な実践事例を取り上げ、地域との連携を生かした学校経営の推進について、校長の在り方や指導性について発表する。

協議の流れ（13：00～16：30）

名刺交換

開会・日程確認（7分）

担当者紹介・司会者挨拶（3分）

趣旨説明（10分）

研究発表1, 2（40分）

研究発表についての協議（30分）

グループ 全体

休憩（10分）

グループ討議（60分）

全体討議（40分）

研究協議のまとめと今後の課題（10分）

司会者挨拶（1分）

閉会の言葉

連絡

討議の柱

視点1 将来を見据えた明確な学校経営ビジョンの策定

校長のリーダーシップのあり方と、自校の「課題」や「経営ビジョン」の共有をどのように図るか

視点2 学校の役割を明確にした創造的な学校経営の推進

経営ビジョンを具現化する組織づくりと、ミドルリーダーなどの人材育成をどのように行うか

第1分科会に参加される皆様へお願い

グループ内で名刺交換を行いますので、名刺を6枚お持ちください。

資料をお持ちになる方は、6部お持ちください。

グループ討議で自校の資料を紹介したい場合は、皆様が作成した本年度の「学校経営方針」をグループ内人数分として、A4版1枚（両面印刷可）程度の分量で6部お持ちください。

グループ編成及びグループ討議の司会・記録につきましては、後日、北海道小学校長会ホームページに分科会参加者名簿（座席表）を掲載しますのでご確認ください。司会・記録を担当していただく方につきましては、当日のグループ討議の進行・記録をよろしく願いいたします。